

ユニフィケーションによる 看護実践能力向上に向けた多重課題に 関する視聴覚教材の作成とその評価

脇本寛子¹⁾，渡辺美奈²⁾，矢野久子¹⁾

1) 名古屋市立大学看護学部

2) 名古屋市立大学病院看護部

会員外共同研究者：名古屋市立大学病院看護部 井出由美，平岡翠

研究助成：平成24年度名古屋市立大学特別研究奨励費により実施。

背景 1

- 複数患者を受け持ち，多重課題を抱えながら，看護を安全に提供するために**看護実践能力の向上**が求められている。
 - 2007 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書
 - 2009 新人看護職員研修ガイドライン
- 多重課題の定義は，「患者にかかわる看護ケアが2つ以上重なること」，「時間的に余裕のない中で業務が集中する状況」とされており，新人看護師にとって**複数患者を受け持つこと自体が多重課題**である。
- 新人看護師が多重課題をクリアすることは，リアリティショックを軽減する要素である¹⁾。

背景 2

- 複数患者を受け持ち多重課題を抱えながら看護を行うための看護実践能力を強化することは重要な課題。
- 看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮めるための教育方法は模索段階である²⁾。
- 多重課題の状況下でも知識と技術を統合し安全に看護実践でき、新人看護師が臨床現場にスムーズに適応できるような教育プログラムの開発が求められている。
- ユニフィケーションにより看護基礎教育と継続教育が協働して取り組むことが多重課題の看護実践能力向上に繋がると考えた。

目的

看護基礎教育と継続教育との**ユニフィケーション**

により作成した**多重課題に関する視聴覚教材**

(以下教材)における学びを明らかにし、**多重課題**

の教育方法を検討する基礎資料を得ることを目的

とした。

方法 1

- **調査期間** 2012年11月～2013年1月

- **研究対象**

- A大学看護学部4年生（以下**学生**）

事前に口頭で説明し内諾が得られた8人に依頼。

- A大学病院新卒新人看護師（以下**看護師**）

配属病棟に偏りが無い10人を選出して依頼。

方法 2

- **方法** 視聴覚教材（以下教材）を視聴し質問紙調査を実施。

- **教材の内容**

患者と看護師は共に演技。

3人の患者〔点滴静脈注射の交換，排泄介助，降圧剤投与開始日の頭痛の訴え〕を設定し看護師が対応する場面。

- **質問紙調査の内容**

教材から学んだこと，多重課題の教育研修に関すること等

学生は21項目，看護師は学生の項目に属性等を追加し24項目。

- **倫理的配慮** 名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会と病院部長会の承認後に実施。成績や勤務評価に一切関係ないことを説明。質問紙は無記名で厳封し研究者への返送により同意が得られたものとした。

結 果

• **有効回答数** 学生8人（回収率100%） 看護師9人（回収率90%）

• **教材から学んだこと**

「よくわかった」と「わかった」が多かった項目

「援助前には必要物品の準備が必要」 14人（82.4%）

「優先順位決定時に考えること」 13人（76.5%）

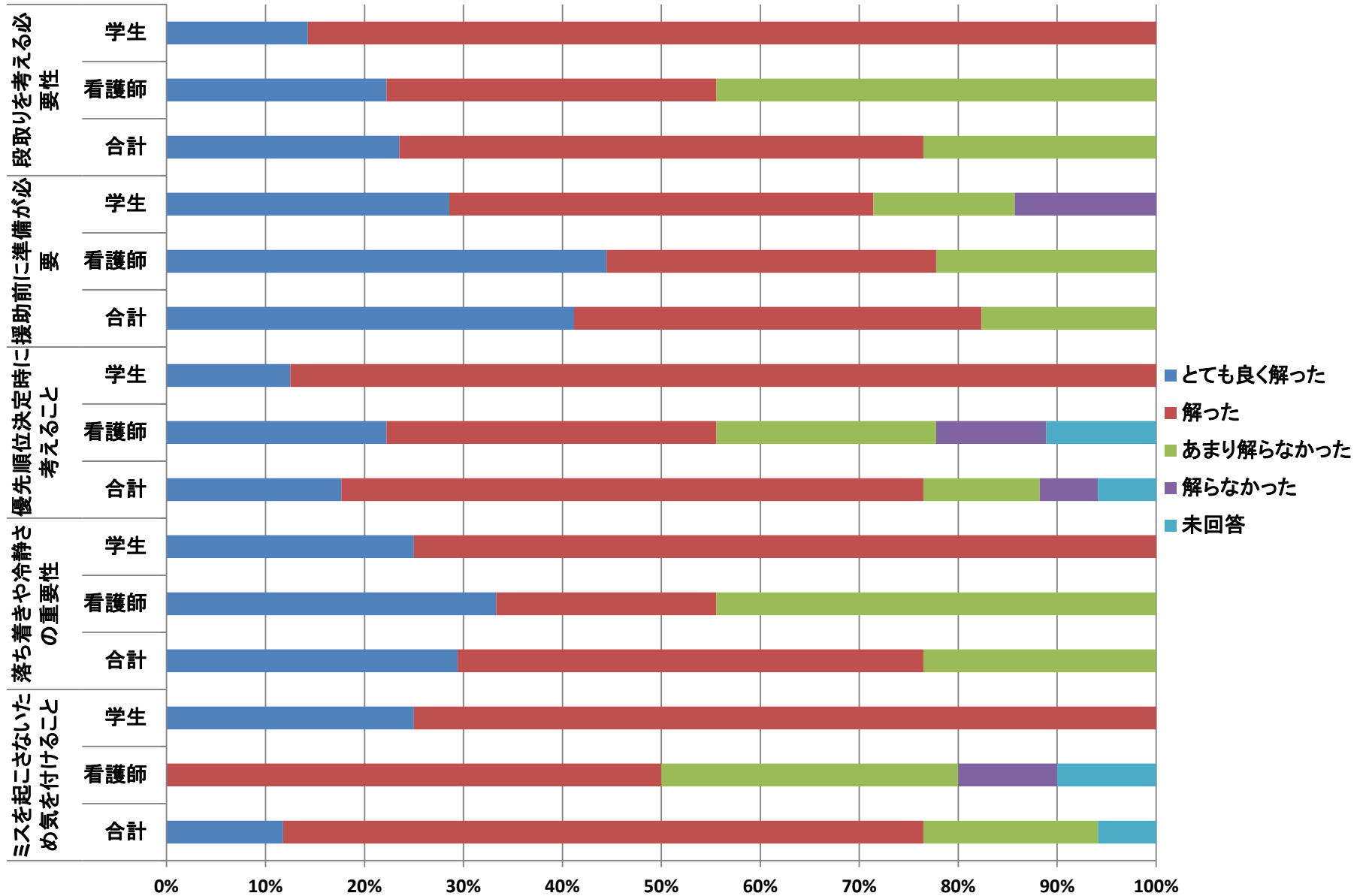
「ミスを引き起こさないために気を付けこと」 13人（76.5%）

「あまりわからなかった」と「わからなかった」が多かった項目

「要領のよい報告の仕方」 9人（52.9%）

「リーダーに報告すること」 4人（23.5%）

教材から学んだこと (n=17)



多重課題に関する環境・使用ツール (n=17)

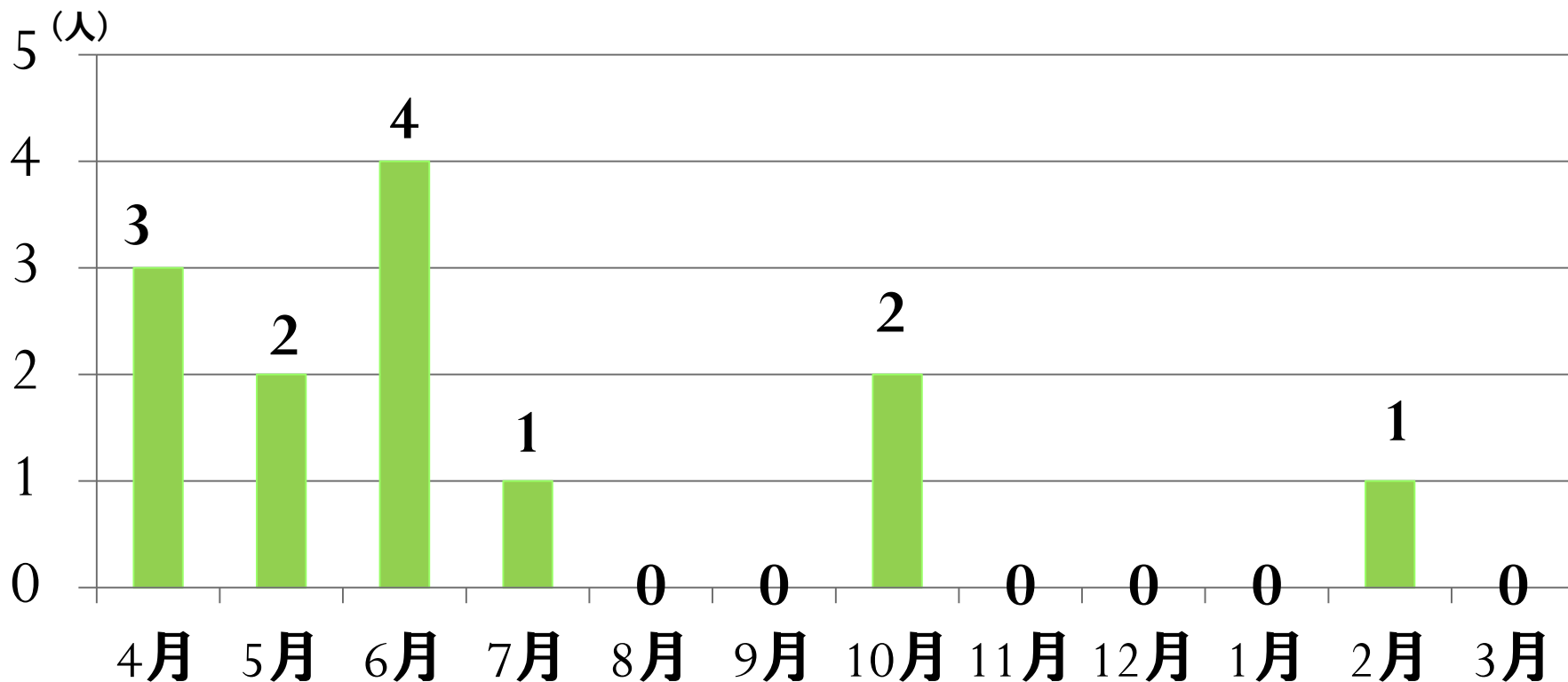
項目	看護学生 (n=8)				看護師 (n=9)				合計 (n=17)			
	ぜひ利用 したい	利用 する	あまり 利用し ない	利用 しない	ぜひ利用 したい	利用 する	あまり 利用し ない	利用し ない	ぜひ利用 したい	利用 する	あまり 利用し ない	利用 しない
多重課題のトレーニングが出来る環境があれば利用しますか	0	8	0	0	3	5	1	0	3	13	1	0

看護ケアにおいて多重課題の状況下で困難を感じた状況を克服するためにどのようなツールを利用しますか (複数回答)

	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
マニュアルを確認	6	75.0	3	33.3	9	52.9
研修資料を確認	(質問していない)		2	22.2	2	11.8
講義演習を資料確認	3	37.5	2	22.2	5	29.4
インターネットで調べる	3	37.5	0	0.0	3	17.6
雑誌・本などで調べる	4	50.0	0	0.0	4	23.5
同僚・友人に相談	8	100.0	8	88.9	16	94.1
その他 (先輩に相談)	1	12.5	1	11.1	2	11.8
その他 (自分で振返)	0	0.0	1	11.1	1	5.9

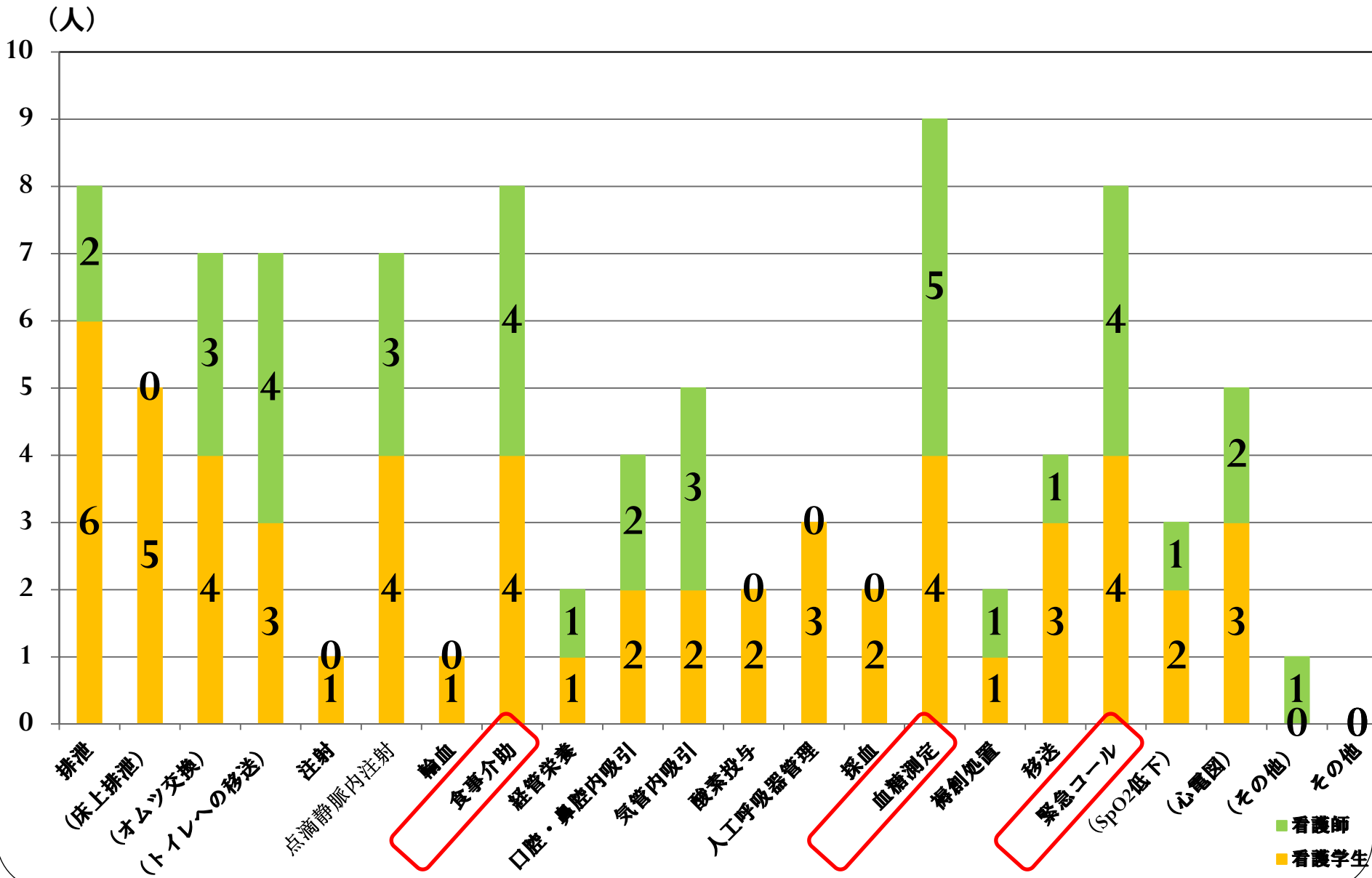
多重課題に関する研修の開催時期

(看護師のみ n=9)



- 看護師9人中7人 (77.8%) が4月～6月と回答
- 自由回答においても「病棟配属された直後がよい」

教材に良いと思う看護技術や設定 (n=17)



まとめ

- **多重課題に対応するために必要と考えられる「援助前の必要物品の準備」「優先順位の決定」は多数理解**しており，本教材は多重課題の教育の一助になりえると考えられた。
- 報告に関しては理解度が低く改善の余地が残されていた。
- 自由回答において「グループで意見交流をすると効果が高まる」とあり，**実技とグループ討議を組み合わせた教育プログラム**とすることも一案と考えられた。
- 多重課題を克服するために新人看護師が望んでいることは，就職して間もない**4月～6月に多重課題に関する研修**が開催されることや，多重課題の**トレーニングができる環境**であることが明らかとなった。
- 教材に含まれていると良いと思う看護技術は「**血糖測定**」「**食事介助**」「**緊急コール**」であり，これらの**多重課題の状況下で困難を感じているのではないかと推察**された。これらに関する設定を含んだシナリオを作成し，より現実に即した教材を作成する予定である。